

飛鳥資料館 写真コンテスト

Asuka Historical Museum
Photo Contest

飛鳥資料館では2012年から「飛鳥資料館 写真コンテスト」を開催しており、今年の春で3回目を迎えました。回を重ねるごとに応募作品の数も増え、注目度が高まってきており、来館者の方々にも好評を博しております。

この写真コンテストでは、飛鳥・藤原地域の歴史に関わる作品を募集し、入賞者に「飛鳥資料館官位」を授与しており、飛鳥資料館らしく「古の都ならでは」にこだわった写真コンテストとなっております。これは、単なる美しい風景写真を集めたコンテストというわけではありません。悠久の歴史を感じさせる写真表現という、コンテストのコンセプトに最もふさわしい写真に「正一位」が授与されます。更に、展示した応募作品の中から来館者の皆様による投票で「従一位」を決定します。

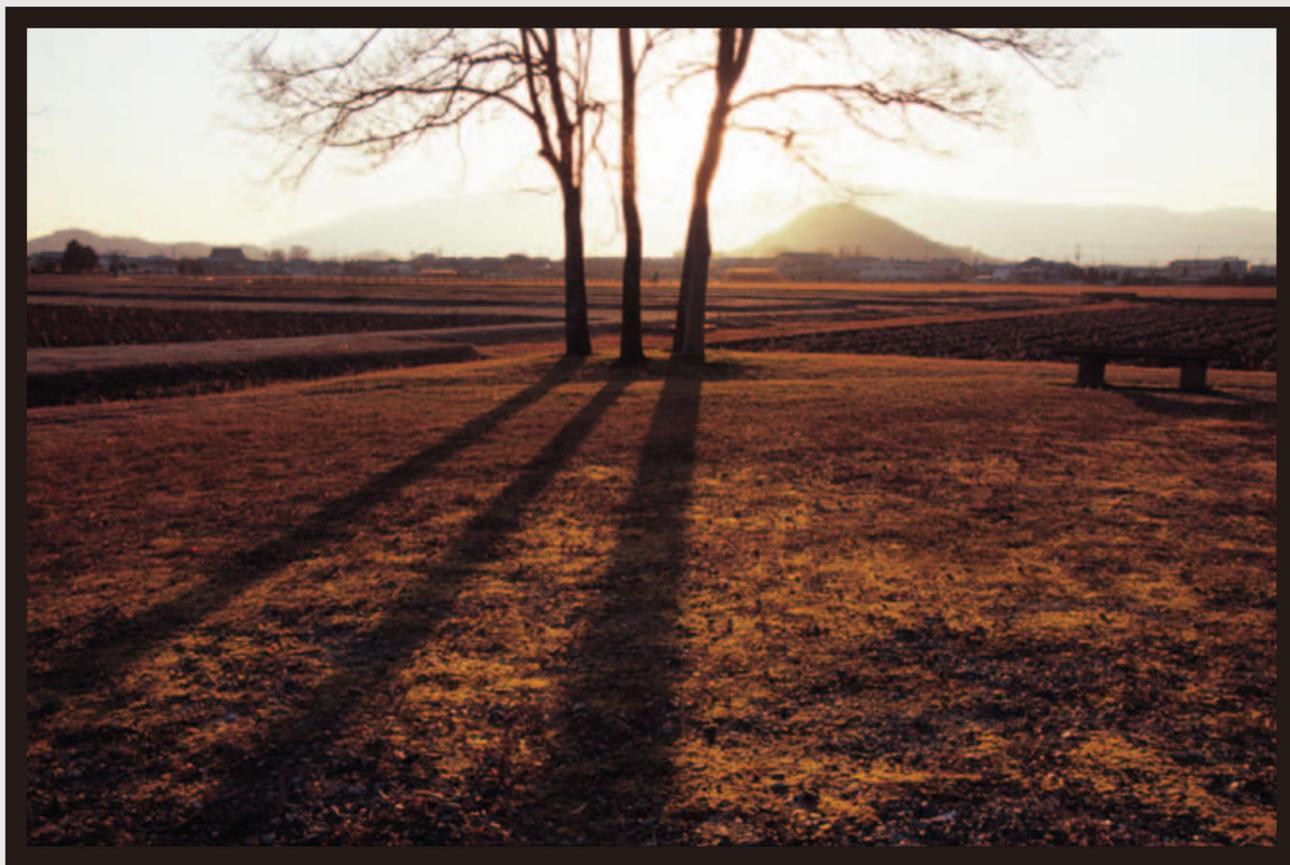
ここでは、これまでにコンテストで「正一位」を授けられた方々の入賞作品をご紹介します。撮影者のコメントからは、古の都に対する思いが伝わってくるのではないのでしょうか。 (飛鳥資料館 成田 聖)

第2回写真コンテスト

2012年8月4日～9月17日

遥かなる華の都

正一位 華都写真太政大臣
藤江 宏 様
「歴史の大地・夕映え」



入選者作品コメント

この度は栄えある「正一位 華都写真太政大臣」賞を賜り、望外の喜びです。日本初の藤原京の都が地下に眠っている。710年 平城京に遷都してから、1300余年後の今もその大地を夕陽が黄金色に照らし出し、見る者、思う者を遠い昔の歴史的舞台へ誘ってくれる。そんな思いを込めて撮った一枚です。やはり、奈良大和路の風景には、歴史的景観と記紀万葉景色が一番似合う気がする。



第1回写真コンテスト
2012年2月11日～3月4日

知られざる 飛鳥の情景

正一位 情景写真太政大臣
宮田 哲治様 「降臨」

入選者作品コメント

満々と水を湛えた棚田が重なり合う明日香村細川は、同村の中でも高い位置にある集落である。

その細川の集落の彼方に望む二上山に夕陽が入るとき、その赫赫たる輝きを受けて棚田は真っ赤に染まる・・・。

この光景がいわゆる細川の「定番写真」となる。その光景に出会うために、私自身も何年にもわたり数え切れないほど足を運んだ。

ただ今回の「飛鳥資料館」の写真コンテストは、「知られざる飛鳥の情景」というテーマで募集されたため、普段知られていない「細川の表情」を切り取った作品で応募した。

雲の割れ目からこぼれた光が「光芒」となって、細川の棚田に降り注ぐ一瞬を捉えた作品である。

まるで「農業の神様」が今年の豊作を約束するかのよう、「姿」を見せられたように感じた。

第3回写真コンテスト
2013年3月9日～4月14日

神々の山 大和三山のある風景

正一位 神々之山写真太政大臣
白石 博様 「サンシュユの咲くころ」

入選者作品コメント

この度は栄えある「正一位 神々之山写真太政大臣」という賞を頂き、驚きと喜びでいっぱいです。今回のテーマは「神々の山」という事で、私が好きな明日香村から望む畝傍山を選びました。撮影当日は朝から雨が降っていました。夕景は駄目だろうと思っていたのですが日没前に雨が止み、雲の切れ間から夕日が顔を出してくれました。雨上がりのおかげで道や畑などが光り輝き、素晴らしい光景でした。中でも今回の主役・サンシュユが特に光り輝いていました。諦めていたところに出会ったこの素晴らしい光景に嬉しくなり、夢中でシャッターを切ったのを覚えています。今回の受賞を励みに、これからもより一層精進していきたいと思えます。

